

部 会 報 告

ISO/TC 127 (土工機械) /SC 3 (機械特性・電気及び電子系・運用及び保全) /WG 6 (盗難妨害装置) パリ国際会議報告

標 準 部 会・ISO/TC 127 土工機械委員会・砂村 和弘 (日立建機)

1. 概要

国際的に建設機械の盗難が大きな問題となっており、国内では盗難機械(油圧ショベル)を用いたATM強盗というさらなる社会問題化するなどの状況下、建設機械の盗難防止対策が大きな課題となっている。とはいうものの規格作成は泥棒に手の内を教えることにならないかという懸念もあり、当初フランス担当で(性能基準として)泥棒をシミュレートした試験を行いその時間で評価する内容の規格案が作成されたが、日本などでもトライしたところ再現性が低い(試験担当メンバーによるバラツキが大きい)ため、方向性を見直すこととなり、日本(建設機械工業会)のガイドラインをベースに、設計的な要件で泥棒されにくさをランク付けする方向で合意されたので、それをベースとすることとなった。

しかしながら、計3回の国際WG開催で細かいすりあわせを行っていたものの、時間切れで廃案となったため、再度新業務として投票、その結果、承認され、以前はTC 127の分科会SC 1(性能試験方法)担当であったがSC 3分科会(機械特性・電気及び電子系・運用及び保全)に移管、規格名称も「盗難防止装置」Anti-theft systemから「盗難妨害装置」Theft deterrent systemに変更、コンビナーも前任者の引退によりジャンノッシュ氏に交代して、WG再開され、今回パリで会合、CD案文について検討することとなったところである。

2. 会議場所など

- ・日時：平成20年9月10日～11日
- ・場所：フランス国パリ市デファンス地区 Maison de la mécanique (機械会館) のUNM (フランス機械工業会連合) 会議室
- ・出席者：ジャン＝ジャック＝ジャンノッシュ (フランス, キャタピラー社, 会議発言ではJJJ氏と略す), チップ＝クップマン (オランダ, 損害保険関係者), ハーカン＝ウエットシュトルム (スウェーデン, ボルボ社), マーク＝シュテフェン (米国, キャタピラー

社), デビッド＝ギャンブル (米国, ジョンディーア社), 砂村 和弘 (日本, 日立建機) 計6名
 ・TC 127/SC 3/WG 6 コンビナー (WG主査)：ジャン＝ジャック＝ジャンノッシュ氏 (フランス)

3. 主要議事

- 1) このワーキングの全体の進め方に関して：コンビナーのJJJ氏より、前回の案文作成までに3度も国際会議を経ており、2度も国際投票を経た案文であるから、全体の構成はこのままいじらずにISO化したい。内容に関して改定したい意向があれば、それは別途NWIとしてやるべしと、全体の進めかたに関して強い意向の説明があった。それで、クラスわけや、この規格のスコープに関してはこのまま進めることとした。これ自体は日本としては歓迎すべきことである。

ただし、クラスわけのなかで、前回の案文はリモートイモビをイモビから独立させてクラスを与えていたところが、最近の技術動向として、かなり近接なりモート (JRで改札を通るときに使う「スイカ」みたいなもの)が増えてきており、リモートとタッチ式の区分けがあいまいで難しくなっており、リモートを独立したクラスとしないこととした。このため、これまで8クラスあったのが1つ減って7クラスとなった。

(前回ISO/TC 127総会でハーカン＝ウエットシュトルム氏から提起された問題に関して)

- 2) 「ISO 10264 キーロック式始動装置をこの規格 (=ISO 22448) に含ませてしまおうというアイデア」に関して：ISO 10264には安全要求が含まれているので、アンチセフトと混同するのはだめだと、私から主張し、受け入れられた。ついでにISO総会での本件の報告も私が宿題として受けた。
- 3) 追跡装置 (いわゆるセコム) の扱いに関して：米国でも盗難されるときに直接それを阻止しない

ものの、盗難されたあとで、追跡できる装置が普及し、効果をあげているそうである。日本からの、もともとの建機工原案にはこれが入っていたが、これまでの会議で「直接その機械の盗難を防止しない装置はこの規格のスコープからはずす」むね可決されてようになってきた経緯がある。復活に関して論じられたが、prEN 152136 Trucking systemとして別規格作成中との報告がクップマン氏からあり、おりをみて、参照することにした。

- 4) 詳細は後日 JJJ 氏から配布される CD 案文をご覧いただきたいが、2年前の案文から大きな変更はない筈である。今回の会議は「出直し」を確認しただけのことだった。
- 5) 今後の予定:今回論議により、CD 案文発行となり、以後、特に大きな問題がない限り書面審議にて発行を目指すこととなると思われる。

以上

JCMA

「建設機械施工ハンドブック」改訂3版

近年、環境問題や構造物の品質確保をはじめとする様々な社会的問題、並びに IT 技術の進展等を受けて、建設機械と施工法も研究開発・改良改善が重ねられています。また、騒音振動・排出ガス規制、地球温暖化対策など、建設機械施工に関連する政策も大きく変化しています。

今回の改訂では、このような最新の技術情報や関連施策情報を加え、建設機械及び施工技術に係わる幅広い内容をとりまとめました。

「基礎知識編」

1. 概要
2. 土木工学一般
3. 建設機械一般
4. 安全対策・環境保全
5. 関係法令

「掘削・運搬・基礎工事機械編」

1. トラクタ系機械
2. ショベル系機械
3. 運搬機械
4. 基礎工事機械

「整地・締固め・舗装機械編」

1. モータグレーダ
2. 締固め機械
3. 舗装機械

● A4 版／約 900 ページ

● 定 価

非 会 員：6,300 円（本体 6,000 円）

会 員：5,300 円（本体 5,048 円）

特別価格：4,800 円（本体 4,572 円）

【但し特別価格は下記◎の場合】

◎学校教材販売

〔学校等教育機関で 20 冊以上を一括購入申込みされる場合〕

※学校及び官公庁関係者は会員扱いとさせていただきます。

※送料は会員・非会員とも沖縄県以外 700 円、沖縄県 1,050 円

※なお送料について、複数又は他の発刊本と同時申込みの場合は別途とさせていただきます。

●発刊 平成 18 年 2 月

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館)

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>